

Report

能登半島派遣報告

会場

輪島商工会議所

応援経営支援員

当所支援グループ

家田 優



2月12日から13日にかけて、輪島商工会議所（仮設事務所内）での応援派遣業務に初めて参加しました。現地では、能登半島地震による全壊被害に加え、奥能登豪雨による浸水という二重被災を経験した工芸店など、筆舌に尽くし難い状況を目の当たりにしました。現在も立ち入り禁止の規制線や、公費解体による更地が広がる光景からは、震災の甚大さと復旧の長期化を強く実感することになります。

しかし、資産を失うという不条理な現実と直面しながらも、コンテナハウスの活用や仮設商店街への入居により再起を期す事業者の姿には、地域の底力と強い希望を感じました。特に印象に残ったのは、将来の本設復旧を見据え、移設可能な備品を導入するなど、先を見据えて「今」を戦う事業者の姿勢です。

支援の在り方は単なる資金提供にとどまらず、早期の営業再開に向けた「仮復旧」と、その後の「本復旧」を一体とした計画策定を伴走型で支えることにあります。また、事業者にとって難解で複雑な補助金申請をサポートすることは、再起に懸ける「こころ」を絶やさず、未来へと繋ぐ重要な役割であると感じました。

深刻な廃業懸念に対しては、各種補助金の活用に加え、新たな挑戦や継承の提案を行うことが、地域産業の維持・再生において極めて重要です。被災地の復興は単なる現状復旧ではなく、地域の伝統や特性を「新たな形」で守り抜き、将来の自立へと繋げる伴走支援にあると考えます。

今回の経験を通じ、事業者が抱える不条理な現実の問題に寄り添い、共に未来を歩む支援の姿勢は自身の信念にも大きく影響を与えることになりました。困難に抗い再起を期する人々の強さに触れ、逆境下でも解決の糸口を模索し続けることの重要性を忘れることなく、今後の業務に努めて参ります。